

## 特集「ソフトウェア工学」の編集にあたって

花川 典子<sup>1,a)</sup>

「コンピュータシステムは人類の未来を劇的に変える」という魅力的な理念のもとに多くのシステムが開発されてきた。その結果、現代社会に必要な不可欠な鉄道等の公共交通機関、証券取引や銀行 ATM 等の金融、モバイル端末の通信等の社会基盤はすべてコンピュータシステムによって支えられている。これらの社会基盤は人間に不可欠な水や空気と同様に「正常に動作して当然、異常が発生すると生活が成り立たない」存在となった。ひとたび、社会基盤がコンピュータシステムトラブルのため停止すると日本だけでなく世界中の経済活動、社会活動、日常生活に甚大な損害を与える。「水が飲めない、空気がない」と同様に「移動できない、買い物できない、連絡できない」と人類の活動そのものが停止する。ソフトウェア工学は現代社会の新しい「水と空気」を絶え間なく供給し続け、正常に動作し続けるために、よりいっそう重要な役割を担うこととなる。

そのため、原理原則を探究する理論研究はもちろん、開発事例に基づく実証研究等幅広いアプローチで、人類の活動を停止させないコンピュータシステムを実現する研究活動を行う必要がある。情報処理学会ソフトウェア工学研究会では、このような研究を推進するためにシンポジウム、ワークショップ、研究発表等主催し、研究者と実践者が社会に有益な研究アプローチとその成果に関する議論する場を提供してきた。本特集号もその活動の一環として企画された。

本特集号はソフトウェア工学に関連した研究開発全般について、最新の研究成果や開発事例に基づく知見等を幅広く掲載することを基本方針とした。さらに、通常の論文投稿だけでなく、ソフトウェア工学研究会主催で 2013 年 9 月に開催されたソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2013 (SES2013) に投稿されたシンポジウム論文との同時投稿を奨励した。シンポジウム投稿論文をそのまま、もしくは拡張した論文を受け付け、優れた研究成果をシンポジウムだけでなく、論文誌への早期の投稿を促して社会への貢献の推進することを目的とした。

本特集号は単独投稿とシンポジウムの同時投稿を合わせて 30 編の論文が投稿された。投稿論文の研究テーマは要件定義の上流工程からテストの下流工程までの幅広い分野にわたり、かつ、純粋な理論研究から具体的な実践事例まで広範囲の論文が投稿された。厳正な査読および 2 回の編集委員会での審議を経て、最終的に企業（共著）からの 3

編の論文を含む合計 11 編の論文が採択された。審査を行う編集委員会では「条件付き採録」の条件の明確化に重点を置いた。採録条件を明確にすることによって、改訂箇所と方法を明示的に示し、結果として読者に分かりやすい論文に改訂されることを目指した。

採録論文はプログラムコード解析系の論文の割合が高いが、プロジェクト管理系やユーザインタフェース等の設計系、テスト手法系の論文も含まれ、多様な論文構成の特集号となることができた。また、手法の提案や研究調査結果を示しただけでなく、その提案に基づいたツールや開発環境を提供した論文が含まれている。同時にオープンソースプロジェクトの蓄積データで提案手法やツールを検証しただけでなく、産業界のプロジェクトの実践データを分析して提案手法やツールを検証した研究成果も提示されている。論文で提供されたツールや開発環境、さらに実プロジェクトのデータ分析で検証するアプローチは、産業界の実践者たちに研究成果のスムーズな理解を促し、研究成果活用の推進に役立つと考えられる。その点での本特集号は産業界に大きな貢献を果たせたといえる。

最後に、本特集号に投稿していただいた会員の皆様、本特集号の機会を与えていただいた論文誌編集委員会、多忙にもかかわらず丁寧な査読や議論にご尽力いただいた特集号編集委員と査読者の皆様に深く感謝する。

「ソフトウェア工学」特集号編集委員会

- 編集長  
花川典子（阪南大学）
- 編集委員  
鷺崎弘宜（早稲田大学）、岸 知二（早稲田大学）、阿萬裕久（愛媛大学）、鶴林尚靖（九州大学）、松下 誠（大阪大学）、門田暁人（奈良先端科学技術大学院大学）、小林隆志（東京工業大学）、丸山勝久（立命館大学）、野田夏子（NEC）、大平雅雄（和歌山大学）、亀井靖高（九州大学）、菊地奈穂美（沖電気工業）、立石孝彰（日本 IBM）、長谷川勇（スクウェア・エニックス）、田原康之（電気通信大学）、権藤克彦（東京工業大学）、坂田祐司（NTT データ）、沢田篤史（南山大学）、白銀純子（東京女子大学）、高田真吾（慶應義塾大学）、中谷多哉子（筑波大学）、中村大賀（日本 IBM）、野中 誠（東洋大学）

<sup>1</sup> 阪南大学  
Hannan University, Matsubara, Osaka 580-8502, Japan  
a) hanakawa@hannan-u.ac.jp